

ルリゴシボタンインコの自然繁殖における基礎データの構築と 育雛数による成長の違い

菊地咲耶

(横浜市立野毛山動物園)

野毛山動物園では、1997年6月よりルリゴシボタンインコの飼育を開始して以来、ほぼ毎年のように繁殖に成功している。しかし、雛についての記録が乏しく、成長を評価する基礎データが不足している状態にあった。また、単独で自然育雛される場合と比べ、複数羽で自然育雛される場合は、親からの給餌を兄弟間で分け合うため、単独育雛と比較して体重増加が緩やかになるとの仮説が立てられた。そこで、自然育雛個体の基礎データを構築するとともに、育雛数による成長の違いについて比較・検討することを目的に、本研究を行った。

対象個体は、2024～2025年度に自然繁殖した7羽(単独育雛3羽、複数育雛4羽)とした。孵化日から巣立ちまで週2回の体重測定および全身写真の撮影を行い、体重推移と羽毛発達を記録した。体重増加率を算出するとともに、羽毛発達については成長段階ごとの日齢を記録し、単独育雛個体と複数育雛個体で比較した。

比較の結果、単独育雛個体の体重増加率は平均9.2%、複数育雛個体は平均6.0%となり、単独育雛個体で高い傾向がみられた。体重増加率は17～25日齢で最も高く、その後徐々に低下した。巣立ち日齢は単独育雛個体の平均が43日、複数育雛個体の平均が45日となり、全体平均が44日であった。羽毛発達では、風切り羽が開き始める時期は体重増加率が鈍化する28～29日齢と一致していた。また、単独育雛個体と複数育雛個体で羽毛発達の大きな差は認められず、いずれも同様の発達過程を経て巣立ちに至った。

本研究により、ルリゴシボタンインコの自然繁殖における成長基礎データを一定程度構築することができた。また、育雛数によって体重増加率には違いがみられた一方で、羽毛発達や巣立ち日齢には大きな差は認められなかった。体重増加率の鈍化と風切り羽の発達時期が一致したことから、羽毛形成に伴うエネルギーの配分の変化が成長速度に影響している可能性が考えられる。今後も継続的にデータを構築することで、雛の健康状態の評価や繁殖管理に活用できる指標を確立していきたい。